

和洋女大文家政 鷹司 綸子

1. 我が国の仕事着は国が南北に細長い関係上北に2部式南に1部式の両様服飾形態がみられる。その原型として従来は未開の列島に先ず水稻耕作を基盤とした南方系1部式服飾構成を含む文化が渡来し、その後騎馬文化に基づく2部式服飾構成が渡ったと考えられている。しかし、更にそれ以前にさかのぼれるのではないか。今回は農民衣服の源としての古代服飾に対して試考を行いたい。

2. 有機物質よりなる服装品は湿度の高い我が国では長期間保存されることが出来ない、その上文字もなかったからこれを探るには土偶にたよらねばならない。縄文期出土の土偶を主な資料として考察を加えた。

3. 文化が大陸から我が国に渡来するルートは先ず北九州に上陸、それから漸次北上するのが例とされている。在来の説によれば我が国に北方的2部式服飾形態が入ったのは大和時代といわれている。しかし縄文期の土偶にはすでに明らかに2部式のみられるものが多くみられる。このことは形質人類学や言語学的にも日本の南北には異った性格が認められている様に服飾にもすでにこの期2部式と1部式の両様があって、これが仕事着の原型となったもので、後の大和時代に入った2部式が南方文化の色彩の濃かった表層社会にあらためて採用されたのとは別にすでに存在していたことが認められた。